

鈴鹿ベイロータリークラブ

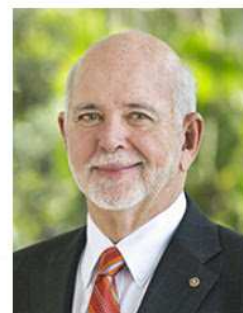
例会日 木曜日 18:30~19:30
例会場 鈴鹿サーキットホテル
事務局 〒510-0295 鈴鹿市稲生町7992
鈴鹿サーキットホテル
TEL 059(379)2484 FAX 059(379)2770



Rotary 

Be the
Inspiration

インスピレーションになろう



第1327回 例会報告 (2019年4月25日)

会員卓話

クラブ奉仕担当

■司会 / 中野 強 SAA ■ロータリーソング / それでこそロータリー

■会長挨拶 / 平野泰治 会長

本日は、平成最後の例会となります。5月からは、令和という新しい時代が始まります。少し昭和と響きが似ていると感じるのは私だけでしょうか。

現在、日本中の自治体で、少子超高齢化さらに人口減少の時代を、世界でも類を見ない早さで迎えている現状を踏まえ、これからの地域づくりをどう進めるかの試行錯誤が続いています。その中で、地域包括ケアシステムや、さらにこれを深化させた地域共生社会づくりが、課題となっています。子どもからお年寄りまで、子育て中の人も、介護や治療が必要な人も、障がいのある人も、外国人も、誰もが住み慣れた地域で、支え合って幸せに暮らせる地域づくりを目指そうというものです。でも、良く考えてみると、これは昭和の良い時代には、日本では当たり前前の地域のあり方でした。それが、グローバル化という言葉の陰で、崩れてしまったのが現状です。これを次は、制度や仕組みとして再現しようという事に他なりません。

将来を考えると、昭和の地域の絆を再現する。これが次の時代を明るい未来に出来るかどうかの鍵を握ると思います。奉仕の精神で活動を行う我々ロータリアンの果たすべき役割は、大きいと思います。しっかりと協力をしていきましょう。

■幹事報告 / 宮崎弘夫 幹事

1. 5月10日(金)午後2時30分より開催される、鼓ヶ浦中学校での「おじさん先生」の講師に平野・谷田・川岸・大泉・中野 各会員にお願いすることになりました。今年は全員参加と理事会で決まりました。会員の方はお忘れなくご集合ください。5月7日に鼓ヶ浦中学校との打ち合わせに行ってまいります。
2. 先週、案内させていただいた地区青少年セミナーへの講師依頼は7ベイ友好会開催日と重なるために辞退いたしました。
3. ガバナーエレクト事務所の依頼により次年度新設される「クラブ研修リーダー」を中村 悟会員にお願いし、ご快諾いただきました。中村会員にはよろしくお願いします。

4. 次年度、鈴鹿・亀山グループが医療関係についてのグローバル гранツ事業を行う事を理事会でご承認いただきました。グループ各クラブから 525 \$ 第 2630 地区と他の 2 地区の DDF 合計 30,000 ドル、WF33,000 \$ を合わせて約 70,000 \$ の事業です。
5. 先週、COL (2019 規定審議会) が終了しました。クラブ運営に係る事柄をまとめて後日報告いたします。
6. 国際ロータリー日本事務局より、5月のロータリーレートは1ドル=112円と連絡がありました。
7. ガバナーエレクト事務所より地区協で参加者に配布された冊子をデータ化したものが届きました。必要な方は幹事までお申し出ください。
8. 最後に週報ですが、少々簡略化してまとめさせていただきました。

■出席報告

例会日	会員数	出席者	欠席者	出席率
4月25日	13名	9名	4名	69.23%

2週間前の補正後出席率 13名中 6名 46.15%

■ニコボックス

平野泰治……平成最後の例会です。皆さんお世話になりました。ありがとうございます。

中野 強……本日はよろしくお願いします。

宮崎弘夫……中野さん、本日はよろしくお願いします。

遠藤龍夫……中野君本日卓話、楽しみにしております。

■例会 / 会員卓話 / 中野 強 会員

東北を支援し続けて8年が経ち思うこと

私は三重県鈴鹿市内で洋菓子店を経営しています。2011年3月11日、いつものように夕方からのお客さんのためにケーキ作りに追われていました。午後3時前「あれ？何か変な揺れ方の地震だな？」と感じました。いつもお店に飾るお花をお願いしている方が、「東北が津波でえらいことになっているらしい」と教えられ、テレビのスイッチを入れたら目を疑うような光景が映し出されていました。



東日本大震災が発生して8年の歳月が流れました。それからは仕事に従事しながらも何か会社で出来る事はないか。被災者が必要としているのは支援者の気持ちではなく、生き延びるための物資ではないかと家族や従業員等と考えました。被災者は何が不足し何が必要なのかを十分に考え、まずは必需品の品々を送り続けました。

2011年7月、鈴鹿市は被災地の小中学生の心が癒やされればと夏休みに鈴鹿に招き、当地の子どもたちと交流を深めてもらう計画を実行し、宮城県女川町の中学2年生をホームステイの様な感じで受け入れました。ある日、私は生徒らが考古学博物館で研修を行っていた最中にお菓子を差し入れしました。そのとき私は生徒たちに「今何が食べたい！？」と大きな声で聞いてみました。ある男の子が「チョコレートケーキを腹いっぱい食べたい！」と叫びました。他の生徒たちにも話を聞いてみると、避難所で生活していて震災前の様な生活ができずストレスがたまっているんだなと思いました。当然ながら次の日、大きなチョコレートケーキを作って生徒たちに食べてもらいました。皆が嬉しそうに食べている顔を見た時「お菓子屋さんになって良かったな」と職業で社会に奉仕できることを嬉しく思いました。



その後、チョコレートケーキがきっかけで女川町の中学校と交流が続き、家内と息子が卒業式に招かれました。その時には鈴鹿市に来ていた生徒たちが色々と町中を案内してくれたそうです。2012年の夏には中学の運動会に私が経営する店の一同そして日系の友人たちと名古屋からバスに乗りサンバ祭りに参加し楽しませてもらいました。以前に鈴鹿へ来ていた子供たちは中学3年生になり、久しぶりの再会を皆笑顔で挨拶してもらったときは、覚えてもらってたんだなと嬉しく感じました。しかし被災した町をみると、4階建のビルは倒れたままで瓦礫も未だに山積みになされたままでした。子どもたちの明るさと、その風景を重ねたときはため息しか出ない状態でした。



その1週間後に私が所属する鈴鹿ベイロータリークラブで講演していただいた NPO 法人「災害ボランティアネットワーク鈴鹿」の南部美智代さんに気仙沼市・釜石市・大槌町の仮設住宅街に連れて行っていただきました。第一に感じたことは、被災された方々の生活を見て本当に大変だと感じました。被災するまで1軒家に住んでいた人たちが突然長屋のアパートの様な仮設住宅を与えられ、そこに住み生活していくことに大変苦労され、そして今でも我慢されていると自分の生活を顧みて感じました。仮設街では地元の人たちと共に色々な支援活動を行いましたが、後の座談会で自治会長さんは「親族が亡くなられてる方もたくさんいるここでは、震災で心を病み部屋から出て来ない方もたくさんいる」とおっしゃっていました。



鈴鹿に帰った後も被災地の季節のイベント毎にお菓子を送り、毎年1度は南部さん達と共に被災地を訪れています。行くごとにその場所が変わってきているのがわかります。津波が到達したところで生活し、現在は仮設住宅に住む方たちの元の土地は国が土地を

買い上げる制度になり新しい家は違う所でなければ建てられません。津波が到達した沿岸では高い所で10メートル以上の土を入れてかさ上げされていました。「災前の景色が変わり寂しい」と被災された方が懐かしみ言っておられたことが印象的でした。

私は現在も震災日の3月11日前のバレンタインデーに5ヶ所の仮設住宅に合わせて1000個ずつの友チョコを送り続けています。店の従業員が休みの日にボランティアで出勤しチョコを作って送りました。感謝しかありません。

今年も3月11日がやってきました。今年は偶然にもお店が休みの月曜日ということで1人で津から仙台まで夜行バスで行き、仙台からレンタカーを借りて岩手県の大槌町まで行き、そこから気仙沼市女川町へと行ってきました。あいにく当日の東北地方は暴風警報が発令中で雨・風が激しい一日でした。しかし私が女川町に出向くことは事前に連絡しておいたので多くの人たちが私を待っていてくれましたことにたいへん嬉しく思いました。気仙沼市では仮設住宅街の尾形さんと言う自治会長さんが「せっかく遠い所から来たんだから献花をしていって下さい」と同行を促され気仙沼市立体育館で行われた市主催の合同慰霊祭に参加させて頂き献花してきました。

8年前、何か私にできることはないか？と手探りではじめた被災地へのボランティア活動は今の私にとって大きな心の励みとなってきています。仕事で作るチョコを通して私の「愛」を被災地に届ければ、私より何倍もの力で復興に励む被災地の人々の「愛」が届き、互いの寄り添う気持ちが行き来します。

何の気負いもなく、何の請い願うこともなく、ただ相手の幸せを祈り合う交流をこれからも続けたいと思います。

第1328回 例会報告 (2019年5月10日)	例会日	会員数	出席者	欠席者	出席率
おじさん先生 出張講座	5月16日	13名	9名	4名	69.2%
会長・幹事	2週間前の補正後出席率 13名中 9名 69.23%				

今年も鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校での「おじさん先生 出張講座」が開講されました。講師を務めていただいた谷田会長エレクト・中野会員そして森田会員にお願いしました。各会員講師は特色ある語り口で仕事の楽しさ・厳しさを生徒に語りました。

例年は講師を務める会員のみが学校に赴き生徒らに語りかけてきましたが、今年は当活動をクラブ会員一同で確認してみよう と例会として開催されました。次年度への糧になればと思います。



谷田義弘 会員



中野 強 会員



森田英治 会員